
恋、想い。

Dream Neon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋、想い。

【コード】

N8012Q

【作者名】

D r e a m N e o n

【あらすじ】

君を想う心。そんな心の想いをここに書き綴ります。

伝わらない。

『君が好き。』

思いが伝わらないのが
もどかしい。

想っているだけじゃ
伝わらないのはわかってるのに、
できないよ。

はずかしいし、
何より
振られることが怖いんだ。

僕はずっと君を見ているけれど、
君は僕を見ている
とは限らないから。

これは僕だけの思い。
君を想うココロ。

この思いが伝わればいいのに。

この想いが同じだったらいいのに。

でも、伝わらないから
もどかしいんだ。

伝えられないから
苦しいんだ。

「君が好き。」

いつか、伝えられるかな。

勇気を持って、

君に伝えたい。

素直に伝えられたなら

僕がもつと素直になつたら、
君は側にいてくれたかなあ？

僕は素直に言葉を伝えなかったから
君は僕から離れていった。

「終わりにしよう」

そう言った君に、驚いた。

「わかった」

なんて。

どうしてそんなことをいったんだろう？

理由も聞かず、
わかった、なんて・・・。

僕が側にいて
君が苦しかったなら

その言葉の意味も分かるよ。

だけど、本当の理由なんて
聞いてないから、
聞けなかったから、
今 僕が苦しいよ。

あの時、

なんで？

どうして？

僕は君が大好きなのに。

そう、素直に伝えていたら
何かが変わっていたのかな？

好き。

大好き。

君が好き。

ねえ、戻ってきてよ…。

出会えたことに感謝します。

あなたに出会えたこと。

それは偶然や奇跡なのかもしれないし。
必然や運命だったのかもしれない。

ここで会えたこと。

ここに会えたこと。

繋がっていく鎖。

そして堅く結ばれる絆。

何となく踏み入れた道で
出会えた人々。

それが私を大きく変えた。

色々な人と関わっている中で
あなたと出会えた。

この小さくて大きい世界で
君に出会った。

何となく踏み入れた道に
赤い糸があつた。

ここで出会えた奇跡。運命。

繋がった絆。
堅く結ばれる鎖。

この道を見つけたこと。
この道で出会えたこと。

感謝します。

ありがとう。

私も君もみんなも

私は背が小さい。

君は背が高い。

君は私を小さいって笑うけど、
君が大きすぎるんだよ。

私が背伸びをしたとしても
君の身長には追いつけなくて、

また君は笑う。

そして、手をポンっと私の頭に乗せる。

不思議だよね。

みんな生まれたとき、
始まりは同じだったのに、
こんなにもみんな違うなんて。

みんな違う。

みんなそれぞれ。
みんなバラバラ。

私と君も違う。

だけど、違っていい。

みんなそれぞれで、バラバラで。

それがいい。

それでいい。

みんな同じだったら、怖いじゃない。

それにね、

この角度からだとか、

君の笑顔が輝いて見えるんだよ。

卒業アルバム

明日はついに卒業式。

そんな卒業生に渡されたのは卒業アルバム。

入学式から宿泊学習。

体育祭、文化祭。

そして普段の生活が写った写真。

一番後ろのページには真っ白な空間があった。

皆からのメッセージを入れる空間だ。

皆で廻して、廻して。

書いて、描いてって。

『卒業おめでとう』『たまには連絡とろう』

色とりどりのペンで埋められるページ。

そして

書いてって言った君。

だからこっちもお願いって言って渡した。

この真っ白い空間に想いをうち明けてもいいかな？

『ずっと前から、好きでした』

そう書きたい。

ずっと、ずっと。

君が好きだった。

でも最後まで想いを伝えることはなかった。

だから書きたい。

どうせ口では言えないから。

…けど、結局書けなかった。

君はまだ、他の人にもアルバムを渡して書いてもらおうよね？

それじゃ、みんなに見られてしまう。

それはちよつと恥ずかしい。

それに、この想いは全部、

卒業が近づくに連れ諦めていったんだ。

違う道へ行く。

違う道に行く。

『お互いこれからも頑張ろう』

そう書いた。

その言葉は、他のみんなともあまり変わらない。

だけど、君には
強く想いを込めて。

そして君からの言葉は

『今までありがとう。また逢おう！』

道は違うけれど

交わった道で君と逢えることを信じて。

思い出をここに閉じこめて

新たな風と共に

新たな道を突き進む。

また、逢おう。

私を見つけて…

どうか。どうか。
私を見つけて。

願いや祈りだけじゃ

君まで届かないから
君まで響かないから

私を見つけて。
私を見つけて。

願いや祈りだけじゃ

届かないなら
響かないなら

詩^{うた}を歌うよ。

どんなに嵐がふいても
“見つけて” って思いを込めて。
この歌声は 空をも越えるから。

どうか。どうか。
私を見ていて。

あの空の向こうから。

切ない。胸が痛い。
どうして？

あの時初めて
好きになるということを知ったんだ。

君を想ってる。
風に乗せて 歌うんだ。

君のこと
いつも、
いつまでも、

想ってる。

この歌声は、
届いたかな…
響いたかな…

私を見つけてくれた？

君の隣に行くまで。

待つて。

待つてよ。

君はいつも先にいる。

すぐ側にいるのにどこか遠くて。

寂しい。

悲しい。

淋しい。

追いかけた。

君の後ろ。

君の背中。

手を伸ばしても届かなくて。

また離れてしまったみたいで。

だけど触れたら儚くて、消えてしまいそう。

それでも追いかけるよ。

だって、君の隣に居たいから。

今はずっと後ろを追うだけ。

それでもいつか君の隣で歩けるように。

だから

待っててね。

君に追いつくまで

君の隣に行くまで…

君と共に歩んでいきたいから。

会いたくて。会えなくて。

君に会えない。

悲しい。苦しい。

だってここからじゃ遠すぎるから。

会に行けなくて…

あの時の君の手を取っていたら、
君のそばに居られたかな？

でも、あの時。

君が手を伸ばしていたことに

気づかなかったんだ。

だから、悔しい。

そして、悲しい。

後悔という言葉を知った。

それでも、時間は元に戻せないから。

ただ 悔しいまま 悲しいまま
何も 変わらないまま。

何も 変わらないから。

だって 自分から何もしていないから。

手を伸ばしてくれていたのは君。
私はそれをまた待っていただけ。

もう側にはいないんだよ。
待っていてもしょうがないじゃない。

君はもう私の側にはいないけど。
何処にいるかも分からないけど。

ただ 君に会いたいから。
たとえ 遠くにいても。

今度は私から。

君に会いに

手を伸ばすよ。

あなたを知る

あなたの事なんて私は何も知らないの。
あなたは何も話さないから。

私が何を聞いても曖昧な答えで
私にはよくわからないわ。

あなたはただ私を見つめているだけ。
でも私は困るだけ。

何を言いたいのか。
何を伝えたいのか。
何を求めているのか。

私なりに考えても理解できなくて。

だから言葉を失う。沈黙。

これじゃ何も変わらないけれど。

私はどうすればいい？

何を言いたいのか。伝えたいのか。
何を求めているのか。

わからないから。

そうして私を見つめるだけ。

言つてよ。

伝えてよ。

求めてよ。

私はあなたの事なんて何も知らないから。

何を考えているなんて

わかる訳ないから。

曖昧になんかじゃなくて。

そう。ハッキリとね。

そうして初めてあなたを知るのよ。

失恋／夏祭り編

約束してたよね。

夏祭り一緒に花火を見ようって。

最近、君からのメールが来ないから
忙しいのかなって思ってた
私もメールを控えてた。

だけど、夏祭りの花火は一緒に見たくて
思い切って誘ってたんだ。

久しぶりのメール。
なんて送ればいいか分からなくて
悩んだりしちゃった。

勇気を出して送ったメールの返事は
時間があつたらねって。

ちょっと素っ気なかったけど
嬉しくて、浴衣まで買ったんだ。
どんな浴衣だったか似合うかなって。
君に可愛いって言ってもらえるかなって。

夏祭りまで後二日。
もう少しだなあって考えてたら
君からメールが来たんだ。

他に好きな人が出来たんだ。

別れて欲しい。
ごめん。

大事な話って言って、
メールでそう言って。

私は強くないから
退くことだけしかできなくて
君が幸せならそれでいいって

そっか。って

あまり気にしてないようにして
君に迷惑をかけたくなかったから。

本当に君が好きだった。
大好きでしようがなくて。
告白してきたのは君だけど
私もすぐに君が好きになった。

ずっとこの幸せが続くと思ってた。

夏祭りまであと二日だったのに

「花火……一緒に見たかったなあ。」

もう、涙がこぼれ落ちるだけだった。

ねえ……大好きだったよ。

失恋く夏祭り編（後書き）

失恋系の詩です。

実際にありました（^^；）

不安

君に好きって言ったら？

いつも一緒だったから気付かなかった。
好きになってた。君のこと。

だけど君に好きって言ったら、
恋愛としての好きと受け取ってくれないんじゃないかな。

きつとこのまま友達のままだよな。
きつとこれから側にいるよね。

でもそれはお互いに
愛せる人が来るまでなのかも。

好きって言ったら、どうなるのかな。
恋愛として見れないって言うかな。
もしかしたら離れて行っちゃう？
それとも、側にいてくれる？

好きだと、伝えたい。

だけど、今の関係が壊れるんじゃないかって不安なんだ。

ねえ、好きって言うてもいいのかな？

寒いんだ、君がいないから。

もうすぐ冬になるよ。

枯れ葉は落ちるし、風は冷たくなってきた。

並木道。

ぎゅっと手を繋いで。

笑いあつて。

言わなくても

伝わる愛。

だけど、今は

寂しいんだ、この右手が。

寒いんだ、君がいないから。

悲しく落ちる枯れ葉。

ひゅうと涙を運ぶ冷たい風。

もう、君とこの手を繋ぐことは無いけれど

忘れないよ。

忘れられないよ。

君を忘れる事なんて、

今すぐには出来ないから。

君の笑顔も、君の温もりも。

愛を覚えてくれて

ありがとう。

大好きでした。

大好きでした……。

寒いんだ、君がいないから。（後書き）

本当に寒くなってきた（*—*）
手袋着用、必需品っ！（笑）

やっぱり

届いたメールは、
もう忘れようとしていた、君から。

好きになって 告白して
でも、結果はダメだった。

今ではメールをする事もなくなつて、
話すこともなくなつて、
会うこともなくなつて。

そんな君から、届いた。

ドキッ…て、胸が鳴った。

ああ、やっぱり
君が好きっていうこの気持ちは
きつと捨てられないんだろっな。

久しぶりって始まってから
他愛のない内容を伝えて。

それだけなのに
楽しくて。嬉しくて。
だけど、切ない。

未練を引きずっているみたいで恥ずかしい。
でも、この気持ちはどうしようもないんだ。

やっぱり、君が好きみたい。

後悔なんて

さよなら。

君に背を向けて、去っていったのは自分なのに。
今、後悔してる。

バカみたい。

君のこと全部……

全部……忘れられたら楽なのに。

でも、君に愛された思い出消したくはないって矛盾してる。

見ていて苦しいメールの内容も

ああ、こんなに愛されてたんだって嬉しくなる。

だからこのメールが消せないんだ。

だから君の声も笑い顔も忘れられないんだ。

ねえ、私の選択、間違っていたかなあ。

こんなに苦しい思いをするなら、

さよならなんて言わなきゃ良かった？

でもそれは私も君も苦しいんだよね。

それなら……うつん。

出会わなきゃ良かったなんて思わないよ。

まだココロに君は焼き付いているけど
後悔、なんて思わない日が来るといいな。

君に出会えて良かった。

ありがとう……—。

笑つてよ。

私の頭の中には君しか居なくて。

だけど、君を苦しませるだけだから

私は此処にいられない。

君から私が消えれば、君はまた笑ってくれる？

君から消えた私。

頭から君は消えない。

全部忘れられたらいいのに。

会いたいよ。

会いたいよ。

君に。

聞きたいよ。

聞きたいよ。

声を。

傍にいたい。

傍にいたい。

ずっと。

願望を越え、いつの間にか欲望になつてる。

でも、涙が欲望と共に落としてくれるよ。

私が君を想うなんて事、もうしてはいけななんだよね。
それでも、君を思うのはいいでしょう？

笑って。笑って。
幸せになってよ。

どうか――……

“ スキ ”

何度好きだって言ってたって、
君はそっか、としか言わない。

君は返事をくれない。
ただ微笑むだけ。

僕のこと、どう思ってる？

それは聞けない。
怖いんだ。
情けないよな。

君のココロ覗けたらいいのに、なんて
出来るわけないのに。

いや、それが出来たって意味がない。
君の言葉で聞きたいから。

君が聞いてきたんだ。
“ スキ ” って何って。
良く分からないんだって。

ああそうか。何度言ってたって
その意味が何を表すかを知らなきゃ
伝わらないんだ。

だから言っただ。

君の頬に手を当てて
僕の瞳に君を映して。

愛おしいって。

君の全てが愛おしいって。
愛しているんだって。

そう言えば、君は、

じゃあ何度もそう思ってるって事なのって聞いてきた。

何度も、いつまでもそう思いつて答えた。

君は綺麗な顔で涙を流して
笑うんだ。僕の好きな顔で。

なら、私もそうみたい。

“スキ”だよ。

そう言った君を

もっと好きになっただ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8012q/>

恋、想い。

2011年11月27日15時55分発行